

8 . 河道特性

8 - 1 河道特性

那賀川は、徳島県那賀郡の剣山山系ジロウギユウ(1,929m)に源を発し、徳島・高知両県の県境山地の東麓に沿って南下して東折し、途中で海川谷川・坂州木頭川・紅葉川・谷内川・古屋谷川・赤松川・中山川・加茂谷川等の支川を合わせながら北東に向きを変え、阿南市上大野町に至る。ここで、はじめて平野部に達し、その方向を真東に転じて紀伊水道に注いでおり、その幹線流路延長は125km、流域面積は874km²である。

また、下流部で合流する桑野川は阿南市新野町の矢筈山(566m)にその源を発し、喜来川・南川・北谷川・堂谷川等支川を合わせながら東北流し、阿南市大原に至って、那賀川下流部の平野へ出る。その後、那賀川三角州扇状地の南端部の山際に沿って、途中、大津田川・岡川等支川を合わせながら、那賀川へと流れ寄り、富岡水門付近で那賀川と接し、派川那賀川に合流する幹流流路延長27km、流域面積100km²の河川である。

那賀川の河道は、山間部を蛇行しながら流れる上流部・中流部、主に平野部を流れる下流部、干潟がある河口部からなっている。また、桑野川の直轄管理区間河道は、低平地区間で阿南市中心部を流下している。

(1) 上流部の河道特性(源流～川口ダム)

河床勾配は1/400程度以上で、川幅は100～260m程度である。山間部を蛇行しながら流れ、急峻な河川となっている。



図8 - 1 上流部の状況

(2) 中流部の河道特性(川口ダム～十八女大橋)

河床勾配は1/400～1/500程度で、川幅は140～350m程度である。植生は、那賀川特有のキシツツジやナカガワノギク等が分布している。



図8 - 2 中流部の状況

(3) 下流部・河口部の河道特性(十八女大橋～河口)

河床勾配は1/300～1/1,000程度で、川幅は300～500m程度である。下流の直線区間では交互砂州が発達している。植生は、カワジシャ等の湿性な草地が見られる。河口部には干潟が出現し、塩沼性の植物が存在する。

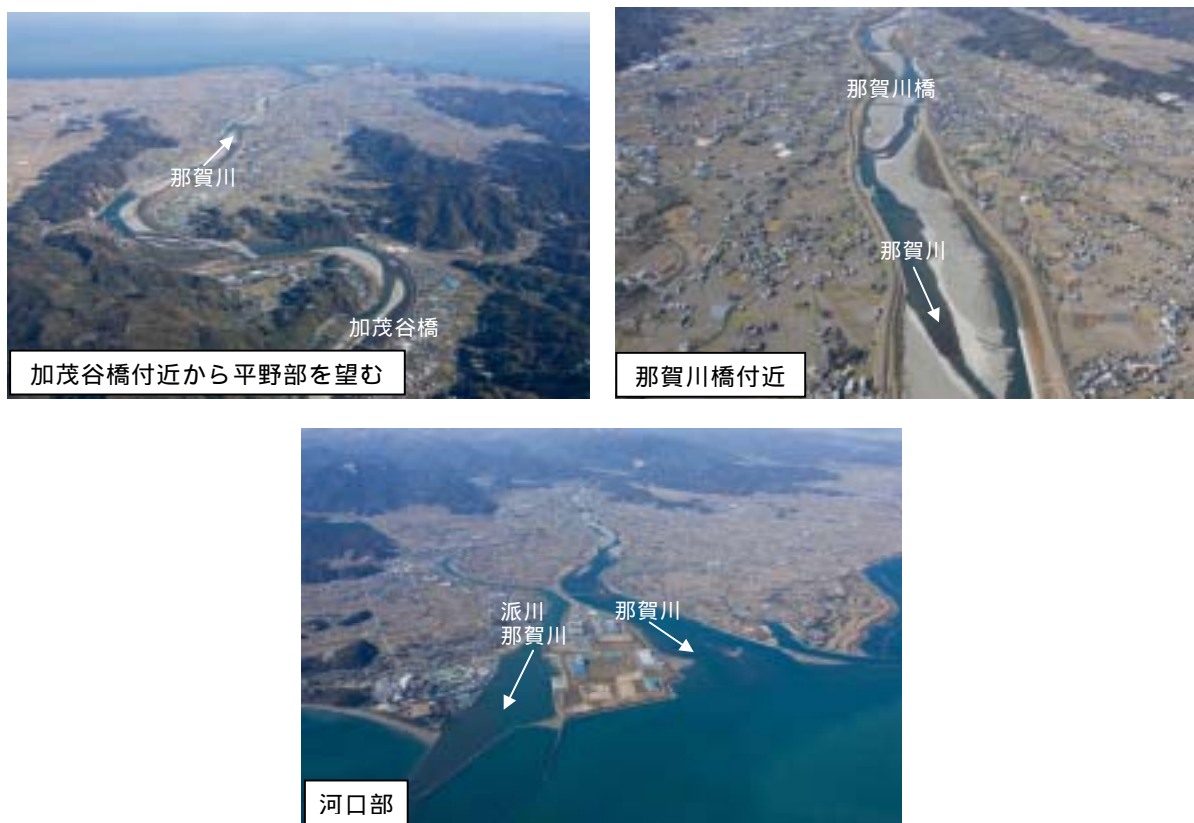


図8 - 3 下流部・河口部の状況

(4) 桑野川の河道特性

桑野川直轄管理区間(河口～9.2k)の河床勾配は2.2k、6.2k付近が変化点となっており、下流より1/590(河口～2.2k)、1/2,000(2.2k～6.2k)、1/1,000(6.2k～9.2k)の緩勾配となっている。河口～2.2k区間で河床勾配が急となっているのは、航路の維持浚渫によるものと思われる。また、直轄管理区間中流部(5.2k)付近には一の堰(可動堰)が設置されており、かんがい期には直轄管理区間上流端まで湛水域となる。川幅は河口～2.2k区間で130～570m、2.2k～6.2k区間で90～230m、6.2k～9.2k区間で60～140mである。

4.6k～5.0kの右岸高水敷が緑地公園として利用されているのをはじめ、高水敷全域が主に散歩や釣り場として利用されている。



図8 - 4 桑野川の状況

8 - 2 河床の経年変化

(1) 那賀川

那賀川の直轄管理区間における昭和58年以降の基準地点古庄の横断面図及び平均河床高縦断図から、河床の経年変化傾向を見ると近年約20年間に於いて顕著な河床低下や堆積等はない。

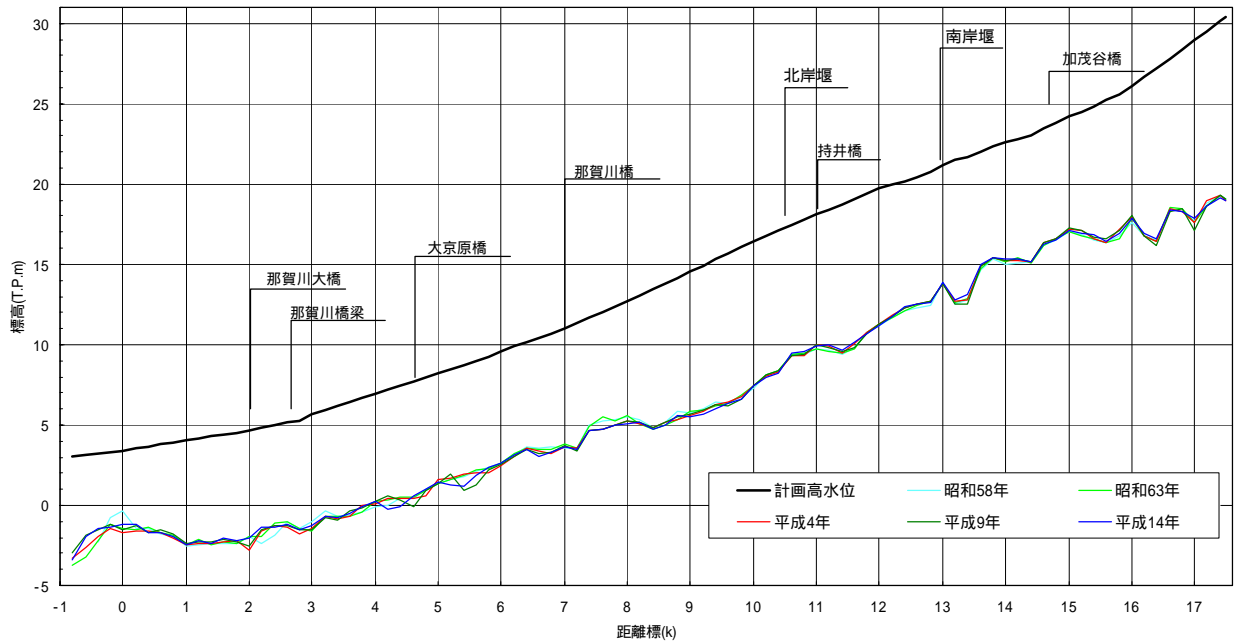


図8 - 5 那賀川平均河床高縦断図の経年変化

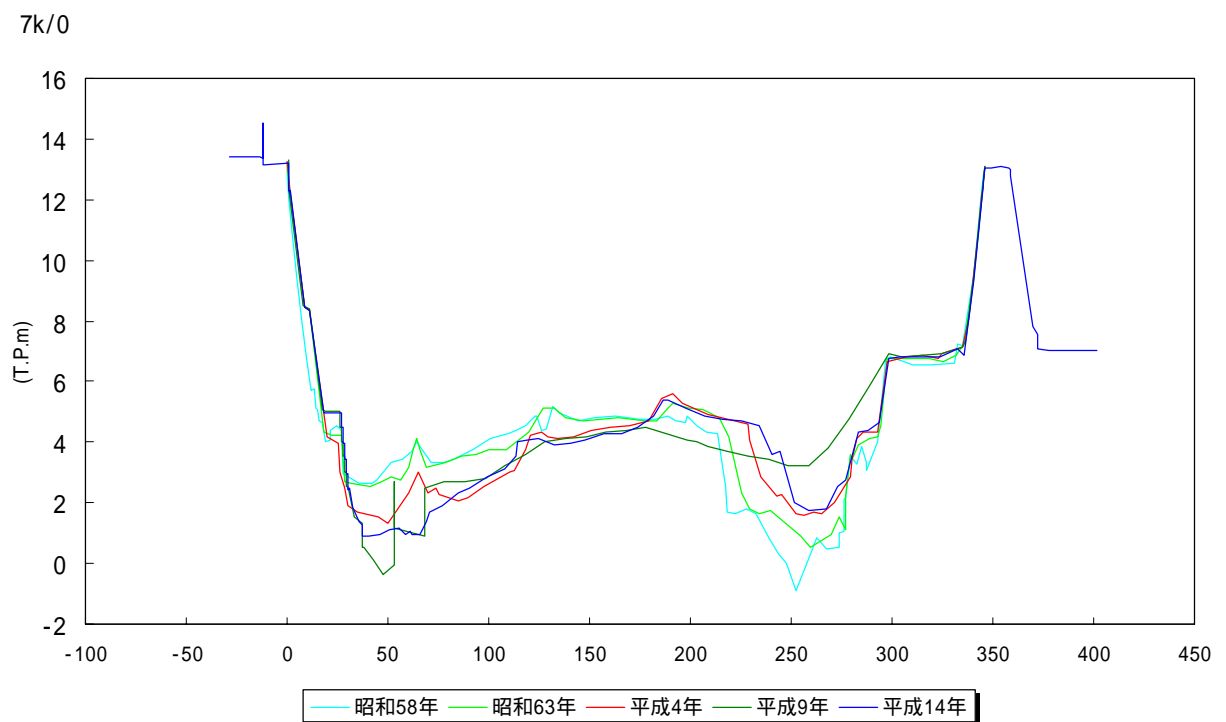


図8 - 6 那賀川古庄地点(7.0k)の横断面図

(2) 桑野川

桑野川の直轄管理区間における昭和55年以降の基準地点(大原付近)の横断図及び平均河床高縦断図から河床の経年変化傾向を見ると、航路維持浚渫を行っている港湾区域を除いて、近年約20年間に於いて顕著な河床低下や堆積等はない。

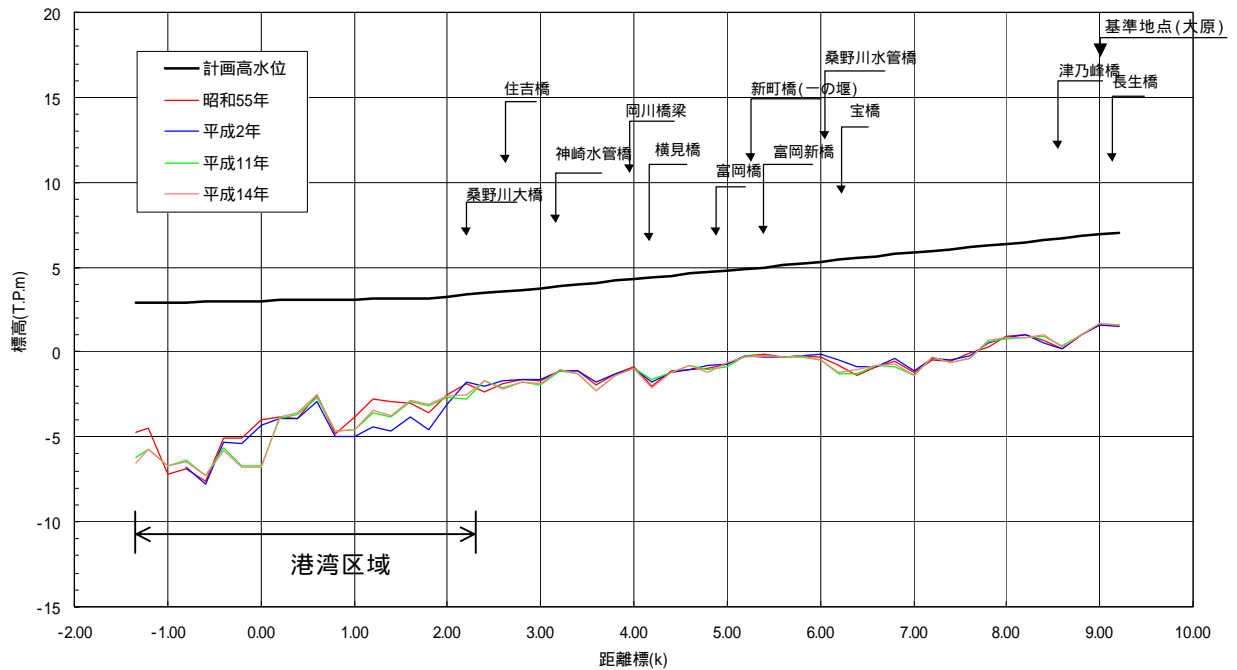


図8 - 7 桑野川平均河床高縦断図の経年変化

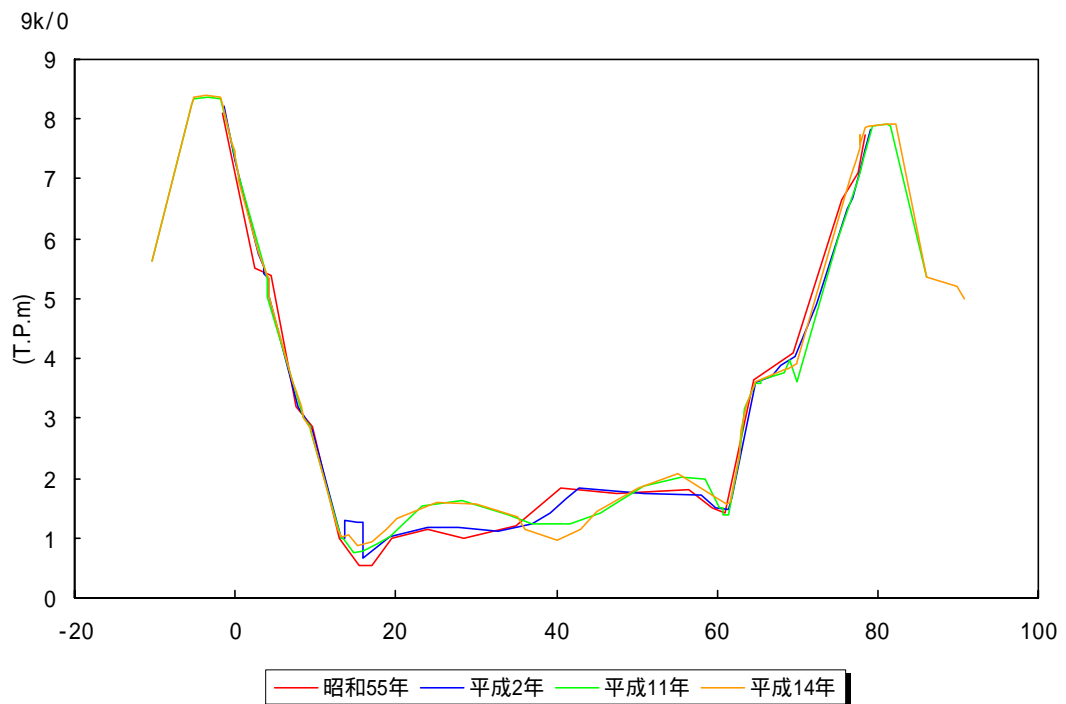


図8 - 8 桑野川大原地点(9.0k)の横断図